

認定NPO法人 生き生きネットワーク 令和6年度事業報告書・決算報告書

◇令和6年度事業報告書◇

はじめに「令和6年度事業報告にあたり」	P1
1. 事業部門別活動報告	P2
2. 人材育成・能力向上支援	P24
3. 理事会・総会、安全衛生委員会等	P29
4. 地域との連携・各種催事の実施・情報発信活動	P33
5. クラウドファンディングへの挑戦	P35
6. 会員数・寄付者数	P36

◇令和6年度決算報告書◇

1. 活動計算書	P37
2. 貸借対照表	P39
3. 財産目録	P41
4. 財務諸表の注記	P43
5. 監査報告書	P44

令和6年度事業報告書

令和6年度 事業報告にあたり

令和6年度は、介護保険と障害福祉サービスの3年に一度の制度改正の年にあたり、特に障害福祉分野における放課後等デイサービスや児童発達支援の報酬体系が大幅に見直され、その対応に追われる日々となりました。

4月には、フリーマーケットを開催しました。ご近所の和菓子屋さんや就労継続支援B型の藤枝の風さん、キャンバスさん、ユートピアさん。また近くの企業の方がポップコーン作りで提供していただき、ご近所の方が育てたメダカをメダカすくいとして提供していただき、地域やご近所との親睦がより深まりました。

また、8月には南海トラフ巨大地震の注意喚起が発令され、日本全体に緊張が走るなか、生き生きネットワークも災害への備えを見直す重要性を強く再認識しました。職員への緊急アンケートを実施し、それを基本にハード・ソフトの両面から防災対策を進めました。喜楽庭では外塀を撤去しフェンスを設置、外壁補修や庭へのステップ整備を行い、くすくす1号館には太陽光パネルと蓄電池を設置するとともに、ガスも都市ガスからプロパンガスへと切り替えました。事務所にも非常口を増設するなど、安心・安全の体制強化を進めました。また、ビジネスチャット

(Chatwork)の導入や、法人全体で連動した避難訓練も初めて実施し、職員間の連携と情報共有の強化にも努めました。

また、2月には、初めてのクラウドファンディングに挑戦し、くすくす2号館に太陽光蓄電池を設置するための資金を広く募りました。わずか1か月で目標額を達成し、多くの方々からご支援と応援の声をいただきました。このプロジェクトは、単なる資金調達にとどまらず、私たちの活動や「防災」に対する想いを多くの方に知っていただく貴重な機会となりました。

3月にはALD(副腎白質ジストロフィー)の未来を考える会の主催でくすくす2号館を利用していただき、スプリングイベントが開催されました。生き生きネットワークも共催し、つばさ静岡の浅野先生、主催団体の会長本間りえさん、ヨガインストラクターの齋藤さんに登壇していただき、新生児スクリーニングを多くの方々に知っていただくことができました。誰にでも利用していただける2号館でありたいと思います。

これからも地域や関連団体との連携を図り、職員・利用者・ご家族・地域の皆さまと想いを共有しながら、柔軟に、そして着実にアクションを起こしていける法人でありたいと考えています。その1つとして、ワーカー慰労会や誰もが集まれる寄合日を復活させたいと思います。

1. 事業部門別活動報告

(1) 介護保険指定事業

①居宅介護支援事業所（ケアマネジャー） 契約者 58 名(要介護 38 名、要支援 20 名)

超高齢社会のなかでも、高齢者さんが自分らしく自立した生活ができるよう広い視野を持って支援させていただき、地域社会全体で支えあえる地域作りに貢献していきます。

令和6年度は新規に10名の方が契約され、契約終了の方は20名でした。

昨年度の大きな課題としては、これまで経験のない程の夏の酷暑でのエアコン問題でした。エアコンの使用を勿体ない、贅沢だと考えている利用者さんも多く、特に独居で認知症の方の対応については、こまめに様子を見に訪問したり、訪問時様子がおかしいと判断し受診にお連れし脱水と診断を受けた方もおられました。今年度も課題になりそうです。

肺線維症の難病でお看取りの支援をさせていただいた事例では、在宅酸素を使用しながら何とか仕事を続けておられましたが、8月に状態が悪化し急速に病気が進行してしまい、仕事に復帰できないまま在宅介護となりました。ご本人・ご家族の意向を尊重しながら必要最低限のサービスからスタートしましたが、日ごと状態が変わっていくため、その都度支援体制を変更し対応させていただきました。苦しい思いをされているご本人に、ほんの少しでも症状を緩和できるように…と、関わらせていただいたチーム全員が祈っていた期間でした。

主任ケアマネ取得のための研修が半年間あり、学びの多い年となりました。いつも自分の支援を振り返る「省察的思考力」を忘れないこと、一人で抱えこまず「チームケア」で相談し合いながら葛藤を受け止め、利用者・家族と向き合い伴走していくこと等、多くを学び、スーパーバイズではグループのケアマネジャー同志で悩みを共有したり、自分にはない視点を沢山気付くことができる貴重な時間でした。事業所としては、1月に新任のケアマネが入社し、体制の変更もありました。

<居宅介護支援>		令和5年	令和6年
ケアプラン作成(件)	要介護	491	482
	要支援	311	262
	計	802	744
相談件数		20	13
認定調査件数		5	8



現在のケアマネジャー



縁側でモニタリングです



新人ケアマネジャー頑張ってます！

②訪問介護事業所・訪問介護相当サービス契約者 28 名（要介護 14 名、要支援 14 名）

年齢を重ねても「笑顔で自分らしく」ご自宅で暮らしていけるよう、真心と思いやりを持ったサービスを提供させていただきます。

令和 6 年度は、新たに 9 名の方とご契約をいただき、5 名の方の契約が終了となりました。要支援・要介護の方それぞれに応じた支援を行い、訪問開始から徐々に慣れてこられた様子が見られました。介護度の変更により支援内容が広がった方や、外出や買い物の支援を喜んでくださる方もおられ、日々の変化を大切にしながら関わらせていただきました。

体調の急変や入所、ご逝去などにより支援が終了となるケースもありました。元気なお姿を見せてくださっていた利用者様が急変され、ご自宅でお亡くなりになったことは、私たちにとっても大きな悲しみでした。

認知症の方や身体機能が低下している方など、支援の内容もより個別性が求められました。特に、視覚障がいと認知症を併せ持つ方の、転倒による骨折をきっかけに訪問回数の調整が必要になったケースや、独居の方の感染症罹患により 1 日数時間の訪問など、関係機関と連携し、その都度、対応をさせていただきました。

夏場の熱中症予防、感染症への対応など、季節や状況に応じた支援も行っていました。中には、エアコンが使われていなかったご家庭に気候の変動と体調管理について丁寧に説明し、快適な環境づくりを進めることもありました。

10 月には運営指導があり、夜間加算の記載漏れ等の指摘がありましたが、すでに返還手続きと改善報告を完了しています。今後はさらに確認体制を強化していきます。

今後も利用者様やご家族、関係機関と連携しながら、一人ひとりの暮らしに寄り添う支援を丁寧に続けてまいります。

<訪問介護>		令和 5 年	令和 6 年
要介護 (人)		12	17
要支援 (人)		25	20
利用者数 (人)		37	37
要介護 (件)		741	1,196
要支援 (件)		1,596	1,349
件数 (件)		2,337	2,545



お買物の内容を確認しています



ヘルパーさんと打ち合わせ中



書類のサインを頂いています

③地域密着型通所介護・通所介護相当サービス「うめの木」

(喜楽庭 定員 15 名、契約者 7 名)

利用者さんが持っている力が発揮でき、機能の維持向上が出来るように支援します。ひとりひとりが主役になれる活動をしていきます。

令和 6 年度は、成人部の方々やのびっこハウス子ども達と、たくさんの交流の機会に恵まれました。合同運動会や七夕、秋祭り、敬老会などさまざまな行事と一緒に楽しむことで、世代を超えたふれあいが生まれ、心温まる時間を共有する事ができました。

また、昼食作りやおやつ作りをみなさんで一緒に行いました。おにぎりを握ったり、お好み焼きの生地をひっくり返したり、トッピングを楽しんだり、積極的に参加して下さり和やかに笑顔あふれるひとときとなりました。

気候が良い日には、近くの公園まで散歩に出掛け、下肢筋力の維持、向上を目指しました。車での遠出で外の空気や季節の景色を楽しみながら、気分転換などの機会にもなりました。

6 年度は、3 名の方が入所され 1 名の方がご逝去されましたが、新たに 1 名の新規の方も利用されました。今後も利用者さん一人ひとりの気持ちを大切に、安心して過ごせるアットホームな温かい場所を提供していけるよう、スタッフ一同、取り組んでいきたいと思ひます。

<地域密着型通所介護>	令和 5 年	令和 6 年
利用者数 (人)	11	10
件数 (件)	1, 328	1, 199



調理中 美味しくできました



子ども達と運動会楽しかったです



ドライブ先でお茶休憩



二人は仲良し♡



日本平まで行きました



夏祭りの風景

④訪問看護ステーション事業所「あんどろ」

(契約者 24 名)

※介護保険指定事業所、医療保険指定事業所

お子さんから高齢者さんまで一人一人が安心して在宅生活が送れるように主治医の指示のもと訪問し支援していきます。

令和6年度は7名の新規契約があり、4名が契約終了、2名が利用休止となりました。新規の7名のうち3名が医療保険で、そのうちの2名は訪問看護がなくても困らないお宅だったので休止となりました。契約終了の4名のうち1名は独居の80代の女性で大腿骨骨折により在宅生活が難しいと判断され施設入所となり、3名がご逝去されました。長く利用してくださった101歳の方が6月にご逝去されました。同居の娘様がいらっしゃいますがほとんど介護を要することはなく、亡くなる3日前までご自分で歩行器を使ってトイレに行かれていました。毎日食べたものやその日あったことを日記に書き、手先を使うことが好きで折り紙制作を積極的に行っていました。食事がだんだんと摂れなくなり水分摂取も難しくなったため点滴で補っていました。トイレで倒れ、主治医・娘様との相談のもと救急搬送され、100歳を迎える前に行ったACPで「最期は自然に」とご希望されたとおり、医療的な処置をほとんどせずにお亡くなりになりました。最期までその人らしい人生を送られたように思います。

BCPの策定に伴う周辺の訪問看護ステーションとの連携は、年に3回の会議を行い情報共有のためのツールを作成しました。シミュレーションには至りませんでした。今後も有事に備えてシミュレーションと会議を重ねていく予定です。

リハビリスタッフの確保ですが、なかなか難しい状況でしたがリハビリの問い合わせがほとんどありませんでした。現在訪問している利用者さんにリハビリが必要になることはありましたが、他の訪問看護ステーションも契約してもらいリハビリを行っています。求人になかなか応募がないこと、リハビリに特化したステーションの方が利用者さんにはメリットが大きいことから、リハビリよりも看護の面を充実させていこうと考えています。

<訪問看護>		令和5年	令和6年
介護保険	利用者数(人)	13	13
	件数(件)	804	757
医療保険	利用者数(人)	8	11
	件数(件)	385	504
リフレッシュ事業	利用者数(人)	0	0
	件数(件)	0	0



歩行訓練中



痰をとっています



バイタル測定中



訪看あんどろです♪

(2) 総合支援法指定事業

①居宅介護、重度訪問介護、同行援護

<居宅介護>

(契約者 30名)

知的障がい・身体障がい・難病の方が利用されています。居宅介護のなかに身体介護と家事援助があります。身体介護は入浴、排せつ、食事の介助など直接介助する支援で、家事援助は掃除、洗濯、調理などの支援になります。

この1年いろいろな出来事がありました。車椅子で生活されているNさんご夫婦のことですが、ご主人は3月にくも膜下出血で入院され、奥様は電動車椅子で葵区平和町から、入院中の病院のある駿河区小鹿まで、毎日通われていました。雨の日もあり、本当に大変だったと思います。ご主人はリハビリのために静岡厚生病院に転院され、少し自宅から近くなったことで、奥様も少しほっとされているようでした。

しかし、残念ながらご主人は6月にお亡くなりになりました。それから奥様はお一人での生活が始まりました。ある夜には、お風呂場で転んでしまい、携帯電話のある部屋まで裸のまま8時間かけて這って移動されたという、つらい経験もありました。助けを呼んだものの、鍵が開かず、公社の方が鍵を壊して救急車を呼ぶという騒ぎにもなりました。この出来事をきっかけに、今では玄関横にキーボックスを設置し、万が一のときにも対応できるように準備されています。

ご主人を亡くされてからは、奥様の気持ちも不安定になり、夜中に「ヘルパーさんが来ない」と電話をいただくこともありました。でも、お話をじっくり聞きながら寄り添うことで、少しずつ落ち着かれてきたように感じます。足のむくみや転倒が増えた時には夜間の訪問やリハビリパンツ、訪問入浴などを提案し、体調のサポートも行ってきました。

令和6年度も急な入院やお亡くなりになった事により支援が終わった方もいれば、新しく支援を始めた方もいて、本当にいろいろな変化があった1年でした。一人ひとりの暮らしに寄り添いながら、少しでも安心して日々を過ごしていただけるよう支援を続けてきました。これからも、困ったときすぐ頼っていただけるような存在でありたいと思います。

<居宅介護>	令和5年	令和6年
利用者数(人)	24	20
件数(件)	2,086	2,000



居宅介護家事援助・身体介護のようす

<重度訪問介護>

(契約者1名)

重度の肢体不自由者であって常時介護を要する障がい者さんに、居宅において入浴、排せつ及び食事等の介護を行います。

この1年、30代の筋ジストロフィーのMさんにとって、大きな変化とたくさんの頑張りがあった年でした。長い間迷っていた気管切開の手術を、6月に思い切って受けることを決心されました。不安な気持ちも強く、なかなか決めきれずにいた中での大きな一歩だったと思います。

手術の後、7月いっぱい入院されていましたが、8月15日から支援が再開されました。最初の頃は、会話の中で少し聞き取りにくい場面もありましたが、ヘルパーも少しずつ慣れてきて、今ではスムーズにやりとりができるようになりました。お薬も粉薬から錠剤に変わり、今では問題なく服用できています。まだ絵画制作に取り組む気持ちは戻ってはいませんが、生活リズムは少しずつ整い朝のルーティーン（朝食・服薬・洗面・排便）も安定してきました。現在は、木曜と金曜の朝8時から約1時間の支援を行っています。

11月には尿路感染から敗血症になり、入院されることもありましたが、無事に回復されました。食事もおかゆから普通のご飯に戻り、固めのものも食べられるようになりました。栄養補助も必要なくなり、体重も少しずつ増えてきました。

1月には「苦しい」と訴えられ、検査の結果、肺に水がたまっていることが分かりました。幸い入院にはならず、ご家族も少し安心されたようです。ただ、その後も痰がからんで救急外来を受診される日もあり、食事のときには吸引しながら、ゆっくり食べるなど、気をつけながらの毎が続いています。

1年を通して、体調には波がありました。大きな手術を乗り越え、少しずつ生活を整えて、前向きに日々を過ごしていらっしゃいます。これからも、ご本人のペースを大切にしながら、安心して過ごせるように、寄り添う支援を続けていきたいと思っています。

<重度訪問介護>	令和5年	令和6年
利用者数(人)	1	1
件数(件)	139	83



食事介助



口腔ケア



<同行援護>

(契約者 30名)

移動に著しい困難を有する視覚障がいのある方の外出・代筆・代読の支援をします。

令和6年度も、同行援護を通じてたくさんの方と出会い、いろいろな出来事がありました。6月には2名の方の利用が終了し、またガイドヘルパーが負傷して手術を受けるという出来事もありました。利用者さんには状況をお伝えし、代替りのヘルパーの手配や一時的なお休みなど、できる限りの対応を行いました。現在も無事支援を続けられています。

新しい出会いもありました。8月・9月にはそれぞれ1名ずつ、契約をしました。これまで外出を控えていたお二人でしたが、同行援護を利用することで通院や記帳といった用事が済ませられるようになり、「今度はマイナンバーカードの申請にも行ってみたい」といった前向きなお話も聞けるようになりました。

また、以前住んでいたワーク春日の宿舎に戻られたNさんは、引っ越しの準備に必要な買い物に同行したり、病院で足のしびれの検査を受けた結果、動脈瘤が見つかって1月に手術をし、回復も順調で「手術してよかった」とホッとされていました。

成人式を迎えたI君は、同行援護で式に参加され、最初は緊張していましたが、最後には笑顔が見られて、ご家族もとても喜んでいらっしゃいました。

一方で、左鎖骨を骨折と脳梗塞が見つかって入院されたAさんは、そのまま施設に入所され契約が終了となりました。Aさんのご自宅で週末を過ごしていた視覚障がいのYさんも寂しそうにしており、人とのつながりの大切さを改めて感じさせられました。

これからも、利用者さん一人ひとりの気持ちに寄り添いながら、「安心して外に出られる」「出かけるのが楽しみ」と思っただけのような支援を続けていきたいと思えます。

<同行援護>	令和5年	令和6年
利用者数(人)	26	26
件数(件)	1,174	1,298



支援はお買物やコンサートなど、皆さん足腰丈夫でお元気です♪

②生活介護(喜楽園)

(喜楽庭 定員 20 名、契約者 18 名)

就労が困難な 18 才以上で区分 3 以上の方を対象とした通所施設です。少人数で家庭的な雰囲気の中で、その方に合ったいろいろな活動を提供していきます。

令和 6 年度は、様々な要因により生じた利用者さんの問題や課題の対応を求められることが多かった一年でした。新規契約した F さん(女性 30 歳)は強度行動障害があり、その時々で表情や行動が変化します。不安定時は他者の指や服をつかむ行動をするので、常に一对一の対応をとっています。なぜ他害行動をするのか、F さんが穏やかに過ごせるにはどうしたらよいか思案を重ね支援をしています。加齢による体力や能力の低下で意欲がわからず休みがちな I さん(男性 60 歳)、生活環境が変わり外出することが減ったことで体力、認知機能が落ち、歩行が難しくなってきた M さん(女性 66 歳)、家庭の事情により急遽グループホームに入居した T さん(女性 40 歳)の心のケアや以前家に引きこもっていた I さん(女性 22 歳)が再び来園が難しくなったりと様々な問題に直面しました。喜楽園が安心して家庭的な温かい居場所であるよう、少人数で居室を分け臨機応変に活動内容を変えたりご家族、関係機関と連絡を密にしたりと一人一人に寄り添う支援を行いました。

活動では少人数グループでの一日遠足、るんるんさんとの合同の音楽レクリエーションやパラスポーツ体験会の参加等、いずれも初の試みでしたが皆さんいつもとは違う表情で楽しんでいる姿がとても印象的でした。今後も継続していきたいと思えます。

<生活介護>	令和 5 年	令和 6 年
利用者数(人)	17	18
件数(件)	2,376	2,620



個々合わせた散歩コースで健康維持向上



調理実習



室内レク活動



市民ギャラリー作品展示

(3) 地域支援事業

①移動支援（地域生活支援）

(契約者 61名)

知的障がい、身体障がいの方の外出支援をしています。利用者が住んでいる地域での生活を豊かにするために、映画鑑賞やボーリングなどの余暇活動、市役所や銀行の手続き、買い物、理美容院の利用など、生活に必要不可欠な外出支援を行っています。

今年度も多くの方に利用していただき、大きな事故もなく無事に支援活動を行うことができました。葵区福田ヶ谷のAさんからは、お母様の入院・転院に伴い、ロングの短期入所のグループホームからの移動支援が出来ないか相談がありました。当初は住所変更がされておらず、この時は利用ができませんでした。その後、お母様が老健へ入所されたことで、正式にグループホームに入所され、現在は月2回程度の移動支援を利用いただいています。6月には1名の利用者が終了し、7月には新たに1名との契約がありました。また、ヘルパーの怪我により一時的に支援が難しくなった場面もありましたが、他のヘルパーが対応し、支援が途切れることなく継続出来ました。ヘルパーも10月に無事復帰し、無理のない範囲で仕事に携わっています。

8月には、「にこにこ」利用のK君のご家族にご不幸があり、静岡市からの許可を受け急遽2人体制で、葬儀会場での支援を行いました。また、10月には1名の利用者が契約終了となり、11月に新たに「にこにこ」利用のR君との契約をしました。

いきいきのフリーマーケットなどのイベントにも、移動支援を活用して参加される方が多く、「とても楽しかった」との声も寄せられました。

12月・1月は大きなトラブルもなく支援を行うことができましたが、インフルエンザやコロナなどの流行によりキャンセルが増えた時期もありました。感染症対策を講じながら、体調を最優先にした支援を行いました。

これからも安心して利用していただける支援を続けていきます。

<移動支援>	令和5年	令和6年
利用者数(人)	35	44
件数(件)	583	482



回転ずし屋さんにお出かけ



お買い物



移動支援で外出を楽しみます♪

②重度障がい者等就労支援特別事業（地域生活支援）

（契約者1名）

重度障がい者等（重度訪問介護、同行援護、行動援護を利用する者）が就労するために支援を必要とするものの、既存の障がい福祉サービスでは「経済活動」を理由にサービス利用が出来ない時間があります。そうした方を対象に、就労にあたり必要な身体介護サービス等を提供しています。

6月からスタートした静岡市独自の「重度障がい者等就労支援特別事業」において、開始と同時に契約をしていただいたOさんの支援を行っています。

Oさんは、静岡市内の就労継続B型事業所で管理者兼サービス管理責任者として活躍されており、生き生きネットワーク支援事業部の居宅介護と同行援護を利用されています。

この制度を活用することで、日々の帰宅支援や、事業所内での就労支援を複数のヘルパーで支えることが可能となり、安定した業務継続につながっています。なお、Oさんは静岡市での第一号申請・利用者でもあります。

12月にシズウェルで開催されたイベントでは、裁縫などの作品作りを3ヶ月にわたってサポートし、無事に出店・終了することができました。また、11月にはサービス管理責任者の更新研修にも参加され、事前課題のレポート作成や当日の受講支援など、2日間にわたる同行支援を行いました。Oさんからは「この支援がなければ更新は難しかった。本当に助かりました」との言葉をいただいています。

その後も、実地指導に向けた書類作成支援や、1月の展示会準備・運営、日々の通勤支援など、さまざま場面で継続的に支援を行っています。今後もOさんが安心して就労を継続できるよう、一つひとつの支援を丁寧に行っていきます。

<重度障がい者等就労支援特別事業>	令和5年	令和6年
利用者数（人）	0	1
件数（件）	0	249



ご利用者さんの活動参加に寄り添っています

(4) 児童福祉法

① 放課後等デイサービス・児童発達支援（知的障がい児対応）わくわく

（くすくす 定員 10名、契約者 24名：児童発達 1名、放デイ 23名）

遊びや活動を通して1人1人の個性を生かし、笑顔あふれる療育を目指しています。

令和6年度は人員体制が大きく変わった一年でしたが、その変化を前向きに捉え、職員一人ひとりが力を合わせて工夫し、これまで以上に多くのお子さんを受け入れることができました。「みんなで楽しめる活動って何だろう?」「少ない人数でも子どもたちが笑顔になれる方法は?」と、日々意見を出し合いながら、創意工夫を重ねて取り組んできました。たとえば、毎日運動を取り入れた「運動月間」、調理活動を中心に据えた「調理月間」、ハロウィンやクリスマスなどの「イベント月間」など、月ごとにテーマを設けて活動を展開しました。これにより、子どもたちも活動の見通しを持ちやすくなり、「今日はどんなことをするのか?」と期待をもって参加してくれる姿が増えました。活動への切り替えがスムーズになり、自分で選び・楽しむ姿が日々育まれているのを感じています。

利用されるお子さんの傾向にも変化が見られました。これまでは北特別支援学校のお子さんが大半を占めていましたが、今年度は普通級や支援学級に通うお子さんの利用が徐々に増えています。それに伴い、保護者の方から「学校の宿題にも取り組んでほしい」というご希望をいただく機会も増えました。なかには戸惑いや抵抗を見せるお子さんもいましたが、「わくわくでやりたいこと」と「ご家庭や学校から期待されていること」をバランスよく支援することで宿題にも取り組む日が増え、成長の一步を共に喜ぶことができました。

さらに、冬休みには「初の参観会」を開催し、ご家庭とのつながりを深める大切な機会となりました。保護者の方には、お子さんの活動の様子をご覧いただきながら、学校や家庭での取り組み、今後の支援についてゆったりとお話する時間を持つことができました。「日頃の様子が見られて安心した」「ゆっくり相談できてよかった」といった嬉しいお声をいただく一方で、「保護者同士のつながりを持てる場もあると嬉しい」といったご意見もいただきました。こうしたお声を大切に、今後の活動に活かしていきたいと思えます。

また、年度末からはチャットワークを導入し、送迎や保育補助の依頼など他部署との連携がよりスムーズになりました。これまでは一部の職員しか把握できなかった情報も、全員がリアルタイムで共有できるようになり、業務の効率化とチーム全体の一体感につながっています。

<わくわく>		令和5年	令和6年
放課後等デイサービス	利用者数(人)	22	24
	件数(件)	1,769	1,882
児童発達支援	利用者数(人)	1	1
	件数(件)	5	48



くすくす合同夏祭り



屋外活動



室内活動



②放課後等デイサービス・児童発達支援・生活介護（重症心身障がい児者対応）るんるん
（くすくす 定員5名、契約者15名：児童発達1名、放デイ10名、生活介護4名）

どんなに重い障がいがあっても、毎日活発に笑顔いっぱいの日々を過ごせるよう、個々人
にあった支援をしています。

令和6年度は、6月頃から猛暑となり、散歩に出ることが難しく室内で過ごす事が多くあ
りました。絵の具を使って花火を描いたり、手型・足型を使って海の生き物を製作し室内を
涼しく過ごしました。

秋に入ると猛暑の影響を受けて体調を崩してしまう利用者が多くありました。その傾向も
10月には落ち着き、きんもくせいの香る中のピクニックやお月見・ハロウィン等の行事も
楽しみました。地域でも、大規模な行事が再開されるようになり、大道芸を見学したり市民
ギャラリーで行われた展覧会を見学したりしました。

冬場には、コロナやインフルエンザに罹患し重症化するケースがありました。誰もが、か
かり得る感染症だからこそ、るんるんとして感染予防の大切さを実感しました。

るんるんの活動では、スタッフが利用者の身体を支えて一緒に踊るダンスパーティーや夏
場のプール、安全面に配慮しながら利用者が利用者のバギーを押してあげる優しさの
こもった散歩、フルーチェやクリスマスのカップケーキ作り等を行いました。

保護者と相談の上、許可されたほんの少しのクリームをおいしそうに舐める様子には、毎回
温かな気持ちが表れていました。また、利用者がお互いに相手の事を思いやる気持ちは、日々
の活動からも感じられました。

利用者も少しずつ増え、1年を通して児童発達支援の児童が通っていただけました。
今後も仲間を増やす努力をしていきたいと思えます。

介助をさせて頂く中で個々の状態をスタッフで共有していく大切さも、秋にあった児童の
骨折事故を通して再確認しました。一瞬の隙が大きな事故につながってしまう重さをいつも
心に置きつつ、日々の利用が「楽しかったよ」と思っていただけのこと、ご家族の安心につ
ながる支援をこれからもスタッフ一同力を合わせ努力していきます。

＜るんるん＞		令和5年	令和6年
放課後等デイサービス (就学児6歳～18歳)	利用者数(人)	10	10
	件数(件)	786	719
児童発達支援 (未就学児0歳～6歳)	利用者数(人)	1	4
	件数(件)	25	131
生活介護 (高校卒業18歳以上～)	利用者数(人)	4	4
	件数(件)	329	382



仲良しの友達



プール遊び



大道芸を楽しみました



すいか割り

③放課後等デイサービス・児童発達支援・生活介護(重症心身障がい児者対応)にこここ
(くすくす2号館1階 定員5名、契約者18名：児童発達5名、放デイ7名、生活介護6名)

1日1日を大切に、より多くの笑顔が溢れる楽しい時間を過ごせるよう努めています。

令和6年度、にこここでは多くの変化と成長がありました。4月からは生活介護の利用者が増え、卒業生の移行や新規契約により、毎日6名の方が朝から通所されています。新たに導入された機械浴も好評で、入浴加算によりご家庭の負担も軽減されました。

春からは畑作業や図書委員活動など、利用者が役割を持って取り組む活動が広がり、皆さんの表情にも変化が見られました。活動に向かう姿勢に意欲が感じられ、自信を持って取り組む様子が増えています。

季節行事も充実し、父の日や七夕では創作活動に取り組みました。夏は水遊びや沖縄風夏祭りを開催し、音楽や踊りで盛り上がり、心身ともにリフレッシュできました。

感染症の影響も一部ありましたが、特に夏には新型コロナウイルス感染症が広がり、施設運営に大きな影響を受けました。そのため、感染症予防策を改めて徹底し、衛生面と施設環境の両面から安全確保に努めています。日々の健康管理の強化や施設内環境の整備にも引き続き取り組み、利用者の皆さまが安心して過ごせる場をつくり続けています。新たに加わった看護師さんも、丁寧なケアで利用者の健康と安心を支えています。

秋には畑でさつまいもを収穫し、芸術鑑賞など文化的な活動も取り入れました。冬にはクリスマス会や成人式を行い、大切な節目を皆でお祝いしました。四季折々の行事を通じて笑顔があふれ、ご家族と喜びを分かち合える機会も増えました。

一年を通じて、利用者の「できた」が増え、自信や達成感が感じられました。今後も一人ひとりに寄り添い、安心できる場所づくりに努めます。

<にこここ>		令和5年	令和6年
放課後等デイサービス (就学児6歳～18歳)	利用者数(人)	8	7
	件数(件)	672	492
児童発達支援 (未就学児0歳～6歳)	利用者数(人)	2	5
	件数(件)	193	278
生活介護 (高校卒業18歳以上～)	利用者数(人)	1	6
	件数(件)	42	533



プール遊び大好きです 🎵



お散歩気持ちが良いです 🎵



図書委員さんみんなの為にありがとう 📖



🍠 さつまいもやジャガイモ収穫が楽しみです



皆で育てたヒマワリ大きく育ちました 🌻

④児童発達支援「のびっこハウス」(知的障がい児対応、定員 10 名、契約者 14 名)
未就学の知的障がいをお持ちのお子さんが通所し、生活や遊びの中でお友達と触れ合いながら丈夫な身体を作り、基本的な生活リズムや生活習慣、コミュニケーションや社会性を育んでいます。

令和 6 年度は、報酬改定により支援が 5 領域に分けられバランスの取れた療育が重視されました。これを受けて個別支援計画の見直しを行い、より丁寧な支援の提供に努めました。親子遠足や参観会を実施し、保護者同士の繋がりを深めると共に療育への理解を深める機会を設けました。喜楽庭の高齢者さんや地域の方々、学生さんとの交流も行いました。特に今年度もクリスマスに英和女学院の音楽部の方をお招きし、素敵な合唱を披露していただきました。子ども達は音楽に触れながら楽しいひと時を過ごし、多世代との関わりの中で温かさを感じる貴重な機会となりました。

しかし、今年度も親御さん自身の困難さが重複している個別サポートⅡの対象の児童も多く、子どもの支援と併せて保護者への丁寧な対応が求められ、児童相談所や子育て支援課等の関係機関と密に連携し、ご家族全体の支援に取り組みました。

一方で、職員間のコミュニケーションには課題が残っており、情報共有やチームづくりの強化が次年度の課題です。

来年度も子どもとご家庭を支える質の高い支援と地域・関係機関との連携強化を図りながら、子どもが安心・安全に過ごし、健やかに成長できるようにしていきたいと思えます。

<のびっこハウス>	令和 5 年	令和 6 年
利用者数 (人)	16	14
件数 (件)	1, 536	2, 167



親子遠足 in 日本平動物園
“なべなべそこぬけ”をしたよ



近隣のお宅の
こいのぼり



ボランティアのお兄さんと水遊び



夏祭り



敬老会 誰とペアかな？



ミニ運動会お菓子取り競争



英和女学院音楽部さん
による Xmas 讚美歌♪



喜楽庭で卒園式

⑤居宅訪問型児童発達支援(重症心身障がい児対応)「のびっこハウス」

(契約者1名)

令和元年5月から24時間人工呼吸器を必要とする外出が困難な重度の障がいのある児童の居宅に訪問しています。

本年度、計画相談さんから、児童相談所が関与していて外国籍・医療的ケア児の利用希望がありました。主な介護者は祖母で、退院後は在宅で育児を行う予定でしたが、本児を養育することで就労が困難となり生活自体が困窮した為、数回の利用で契約終了になり、最終的には児童福祉法に基づく措置入所となりました。その後も別の児童相談所の案件が寄せられましたが受け入れ準備を進めているうちに措置入所となり支援には至りませんでした。改めて早期の対応が求められるご家庭への対応の難しさを感じました。ニーズのあるご家庭に情報や支援が届くといいなと思います。

〈居宅訪問型児童発達支援〉	令和5年	令和6年
利用者数(人)	1	1
件数(件)	51	2



居宅訪問型児童発達支援担当スタッフ

居宅訪問型児童発達支援ちらし

(5) 本来事業（助け合い事業・制度外）

①家事支援・介護全般訪問

(登録者 337 名)

本来事業は、生き生きネットワークの前身である“働く母の会”から変わらず、「困った時伺います」の考えの元にある助け合い活動です。家事のお手伝いや、ベビーシッター、一緒に外出に行つて欲しい、などさまざまな依頼にお応えします。

令和6年度も、さまざまな方々との出会いを通じて、支援を行ってきました。ご家族の病気や介護、子育ての悩みなど、日々の暮らしの中で立ち止まることも多い中で、少しでも力になれるよう努めました。

脳出血により左半身麻痺となった65歳女性の方から、リハビリ入院中のご主人（脳梗塞で右半身麻痺と言語障害）の見舞いに同行してほしいとの依頼がありました。その後お二人で介護施設に入所し、入所先での支援が続いています。後遺症のせいか問題解決のひとつひとつが難しく、相談できる相手がいないことで不安が増していましたが、一緒に考え行動させていただくことが何より安心するようです。「知り合えてよかった」と言っていました。

コロナが落ち着き、外出を希望される方も増えました。何年ぶりかの買い物や外食を喜んでくださる姿に、外に出ることの大切さを改めて感じました。外出を希望される施設の利用者も増えているようで、施設側から増回の相談もできています。

大掃除や引っ越しの支援では、物が多く片付けができない方も多いのですが、ただ掃除や片付けをするだけでなく、その方の生活を考え提案をしながら進めています。DVで逃げてこられたお母さんや、夜間に働きたいシングルマザーの方からの相談もありました。

家庭の中での切実な悩みに触れることも多くあり、中には支援の継続が難しいケースもありましたが、できる形で支えていくことの大切さを改めて感じました。支援を通じて見えてくるのは、単なる作業の提供ではなく、「寄り添い」「共に考える」姿勢の大切さです。利用者の方々の声に耳を傾けながら、必要に応じて福祉・医療機関とも連携を図り、柔軟かつ丁寧な支援を今後も継続していきます。

〈家事支援・介護全般訪問〉	令和5年	令和6年
利用者数（人）	81	82
件数（件）	1,990	1,744



コーディネーター



外出支援



家事支援



② 託児ルーム「エンジェルハウス」

(喜楽庭 定員8名)

エンジェルハウスは、短時間からお子様をお預かりする託児ルームです。

令和6年度は、月決め利用が1名でした。隣接する事業所（のびっこハウス）の利用者数が5月より増えたため保育士や安全性を確保するのが難しく、一時預かりのお子さんを受け入れをするのが難しい状況が続きました。そのため月決めのお子さんが幼稚園に移行し利用がなくなる12月末に静岡市に一時休園の届け出を提出しました。（令和7年度も休園継続中です。）

利用人数が少ない今年度は、のびっこハウスの子ども達との関わりがとても多かったです。手をつないでお散歩に行ったり、おいかけっこをしたり、季節の行事も一緒に参加させてもらい、楽しく過ごすことができました。お兄さんにお世話をしてもらったり、時には小さい子のお世話をしてリードしてくれたりと色々な経験が出来ました。

少人数でアットホームなエンジェルハウスをやってほしいという声もあります。今後の方向性を時期を見て検討していきたいと思います。

<エンジェルハウス>		令和5年	令和6年
利用者数（人）	月決め保育	5	1
	一時預かり	20	10
	計	25	11
件数（件）	月決め保育	533	127
	一時預かり	122	47
	計	655	174



のびっこのお兄さんたちと一緒に散歩。おいかけっこ楽しいね



のびっこの兄と一緒にエンジェル利用でうれしい妹ちゃん



「おばあちゃん見て～かわいいでしょ」と、子どもから会話が始まりました



喜楽庭の夏祭りにも参加しました。

③リフォーム部

リフォーム部は、専門的な清掃、修繕等の家庭内の困り事に対応しています。現在はつばさ静岡さんなどの定期清掃を主に不定期清掃も行っています。就労支援にもなっています。

令和6年度は、施設のメンテナンスと清掃を中心に多くの作業が進められました。特に、定期清掃受託ビルの外階段の汚れがひどくなっていたため、協力業者さんに依頼し、フッ素洗浄を行いました。時間はかかりましたが、見違えるほど綺麗に仕上げてください、建物の外観が一新されました。

また、つばさ静岡では老朽化が進む施設の修繕工事も行い、各業者と協力しながら進めました。建物補修工事については、クロスのジョイント目開きや、クラック補修を行い、共有部分の補修作業を進めました。エリアごとのワックス掛け作業も行い、コロナ禍で後回しにされていた部分を順次対応しました。

年末には大掃除の依頼が多く、引っ越し作業やリフォーム対応を含む清掃作業も行いました。特に、高齢で障害のある利用者の引っ越しサポートでは、片付けまで対応できたことに感謝されました。また、年明けの大掃除と合わせて、塾のワックス工事を実施し、他部門の協力も得て無事に完了をしました。

次年度には、つばさ静岡からはエアコン洗浄工事の見積もりも依頼され、施工に向けた打ち合わせをして作業も進行中です。

全体として、施設の維持管理を着実に進めるとともに、利用者様との信頼関係を深めることができた一年でした。

<リフォーム>	令和5年	令和6年
清掃部門 (件)	130	126
工事部門 (件)	5	13



ワックス工事



エアコン・分解洗浄工事



クロス補修工事



ビル外階段フッ素洗浄工事

④みんなの居場所&こども食堂「もぐもぐキッチン」

令和6年度もたくさんの方々がお弁当を買いにこられました。ご近所さんや中には遠くからお弁当を買いに来られる方もいてメニューを聞くこともなく、買って帰られます。スタッフにとっては嬉しい限りです。

早い時間に完売することも多くありました。元々8年前にはじめた時は、お客様の居場所となる事が目標でした。コロナが終息し、3月3日より再度イトインを始めました。もちろん定食をテイクアウトされる方も多く、お弁当人気は衰えていません。ごく最近は、出張や会議で来静され「SNSを見て来ました」という方もいました。

先日は初めてご夫婦で来られ、とてもおいしいとたくさんお召し上がりになり、お話もされ、生き生きのパンフレットを見てどんな活動をしているのか理解され、ご寄付をくださいました。「スタッフが楽しそうに働いているね」などとお話され「また来ます。美味しかったです」と言って帰られました。私たちがやりたかったことが戻ってきたようで嬉しかったです。

これからももぐもぐキッチンに来られた方々が楽しく語りあえる場になるよう努めたいと思います。



和やかなひとときを!



日替わり定食の例



美味しい微笑み



テイクアウト弁当の例

みんなの居場所 & 子ども食堂
— MENU —

営業時間 月・火・木・金
9:30~LO13:00

日替わり定食(数量限定) 600円
 焼きカレー 400円
 ミートソース 400円
 おむすびセット 500円
 お子様ランチ 350円
 コーヒー・紅茶・アイスコーヒー 200円
 ソフトクリーム 200円
 コーヒーゼリー 200円
 はんぺんフライ(1枚) 150円

みんなの居場所 & 子ども食堂
もぐもぐキッチン

メニュー改定しました

⑤福祉有償運送

公共交通機関をひとりでは利用しにくく、活き生きネットワークの会員登録と静岡市福祉有償運送会員登録をされた高齢者(介護認定を受けている方)、障がい児・者(手帳保有者)を対象に、必要な場所への移送を行っています。

令和6年度、福祉有償運送では様々な出来事がありました。てんかんセンターに併設している、生活介護「ひまわり」の閉所により、有償運送を終了した利用者が新たに「にここ」へ通うようになりました。天気の良い日には有償運送を使わず、徒歩での移動支援が可能となったことは、本人・家族ともに喜ばれました。

また、障害を持つ姉妹の新規登録がありました。通所先が異なるため車両の調整が必要となりました。セダン型車両の長期修理や事故による廃車などの課題もありましたが、安全運転の重要性を再認識し、運転者教育の強化に努めました。

新たにシエンタとNワゴンを導入し、安全運行体制を強化しています。特定事業者になった事で、運行管理者講習を新たに受け、知識向上にも取り組みました。道路交通法改正に伴うアンケートにも対応し、今後の報酬対価の見直しにも備えています。

施設入所者の送迎や外出支援も行い、利用者の笑顔が励みとなっています。今後も安全運転を最優先に、質の高い支援を提供してまいります。

<福祉有償運送>	令和5年	令和6年
会員登録者数(人)	34	36
運転協力者数(人)	18	18
車両数(台)	6	6

運送目的別 件数	通院	114	138
	通学	47	7
	その他	176	145
	合計	337	290



出発前に健康状況確認、アルコールチェックをします。
透析のため施設から病院まで利用しています 🚗



月に1度の通院時にお買物をしながら帰宅します。
タクシーでは買物は難しいため、喜ばれています！



移動困難な方でも、有償運送を使って、自分の行きたい所へ行けて楽しそうです 🚗

(6) 委託事業

①静岡市緊急サポートセンター事業（静岡市子ども未来局子ども未来課）

病気のお子さんの預け先がなくて仕事を休めない時や、急な残業で保育園のお迎えや、その後のお世話ができない時など、働く親御さんの困りごとをサポートします。支援するまかせて会員の養成を行います。またまかせて会員をコーディネートして自宅に伺います。

令和6年度は、感染対策がいかに必要かを改めて認識する年でした。周囲ではマスクを外し生活している方も大変多く、コロナ、インフルエンザに多く感染していました。依頼では初めて聞く病名がいくつかあり、ヒトメタニューモ、急性小脳失調症、周期性発熱などまかせて会員さんをお願いするにあたり顧問医、看護師さん、ネットなどで調べ、おねがい会員さんにも細かく様子を聞いて安心して支援してもらえるようにしました。ヒトメタニューモは緊急サポートの広報誌「かけつけ TAI」で顧問医が細かく説明していただき、まかせて会員さん、おねがい会員さんに郵送し新しい情報を提供しました。

今まで1回も利用されていなかった方や、コロナが始まってから利用が無くなった方などからも多く支援依頼がありました。利用の仕方を再確認し、利用していただきました。アンケートでも「大変満足でした」との返答でした。在宅勤務での依頼も増え、両親ともに家にいての支援もあり、働き方も変わってきたように思います。その他の緊急サポートの仕事として、まかせて会員さんの養成講座は、年2回行い第1回目を6月7月延べ118名、2回目を11月12月延べ122名の参加があり大変勉強になる講義でした。緊急サポートをより周知していただくために、静岡市全てのこども園、幼稚園、子育て支援センター、生涯学習センターに出張登録会の告知も行うチラシを配り、葵区ではアイセル21・駿河区では南部生涯学習センターで2回開催し、ともにスタッフ7人体制で子供服のリユースや子どもさんが喜んでいただけるような工夫をし普段の登録とは違い、距離を縮め楽しく登録会を行いました。

2月大人17名子ども11人、3月大人26名子ども21名参加していただき計32件のお願い会員の登録ができました。

<緊急サポートセンター>	令和5年	令和6年
おねがい会員（人）	1,470	1,394
まかせて会員（人）	210	217
計（人）	1,680	1,612
サポート実件数（人）	229	211



研修会（子どもの遊び）



研修会（日赤短期講習 AED）



あそび子育て研究協会
大川先生



出張登録会

②静岡市清水病児・病後児保育室「虹いろ」(静岡市子ども未来局こども園課)

定員3名(緊急時4名迄)

静岡市から委託を受け、清水区天神にて運営しています。お子さんが病中または病後であり、保護者が就労等の理由で保育が必要になった場合に、お子さんをお預かりして必要な看護や保育を行っています。

令和6年度は全国的に手足口病が流行し、虹いろでも令和5年には3件だったのが令和6年は41件と大幅に増え、本来は夏に流行る病気なのですが、6月～11月までと長期間続きました。また、上気道炎が悪化し気管支炎や喘息に移行しているケースも多くみられました。手足口病やインフルエンザの時期には0歳～2歳の新規利用が増えました。

これまでは電話での予約でしたが、令和7年2月17日からネット予約に切り替わりました。1月2月に業者からの説明と打ち合わせが行われ、導入されてからも利用者さんの声を聞きながら協議を重ね、虹いろの利用者さんが分かり易く使いやすいように、4月後半頃までシステムの改善をしてきました。

ネット予約周知の為にチラシなどにより、年齢関係なく新規の登録と利用が増え、電話予約の時のように1週間連続で予約を取ることが出来ず、早く予約した方が優先ではない為、同じ利用者に偏らず公平に多くの方に利用して頂けるようになりました。

以前から利用されていた方は、最初のうちは慣れずに戸惑う方もいましたが、毎回多くの書類を記入し持ってこなくなり簡素化されて良かった、リアルタイムで保育記録を写真入りで見ることが出来るため安心できる、分かり易いという声も聞かれました。

<虹いろ>	令和5年	令和6年
利用者(人)	103	108
件数(件)	328	355



おなか痛くないですか？



コンビカーとベビーカーの連結です



お絵描きに集中



なにができるかな？



ボールころころ

2. 人材育成・能力向上支援

①いきいき研修会

いきいき研修会は、月1回スタッフを対象として、社会環境の変化、業務の知識、技術の習得、法定研修等について共通して学ぶ研修会です。研修で得た知識・気づきをどう実践するか、レポートに整理して活かします。

- ・法定研修は、運営基準で義務づけられているテーマ(認知症ケア、虐待・ハラスメント防止・感染症予防・まん延防止、緊急時対応、災害時対応等)について、学びを共有しました。
- ・全体研修は、アンケート等で要望が多かったテーマで、関連機関・外部講師の方々等と連携して開催しました。ワークショップ・ロールプレイング・意見交換等を取り入れ、学びが深まり活動に活かせるようにしながら、11回開催しました。

*4月26日(金)「令和6年度新年度にあたって」

- ・代表理事・各部門、多目的室、37名
- ・令和6年度(第26期)スタートにあたり、代表理事より思いと重点施策についてお話いただきました。そのあと、スタッフ一人1人が大切にしたいこと、やりたいこと・困っていること等について発表し合いました。

〈受講後のレポートより〉

- ・発表を聞き、本当に皆さん真剣に真摯に仕事に取り組んでいると改めて感じました。
- ・人手不足の中で、コミュニケーションと連携を大切にしていきたいと思います。さまざまな持ち味、チームワークが生き生きの財産ですね。
- ・学校や保育園でのアプリやSNS活用の情報伝達・共有方法の導入を進めていきたいと思っています。

*5月17日(金)「ケア現場における虐待防止対策」(法定研修)

- ・飯塚哲男講師、多目的室、38名
- ・不適切なケア・虐待グレーゾーンとは何か、どのような行為が虐待・不適切ケアに該当するのかについて解説していただきました。グレーゾーン検討のグループワークで、スピーチロックに当たると指摘をされました。注意します。

〈受講後のレポートより〉

- ・虐待には当たらないがケアとして好ましくない、利用者の思いに配慮しない関わりをしていることを理解しました。
- ・スピーチロックしているなど発見しました。職員都合でグレーゾーンケアにならないよう心がけます。

*6月28日(金)「認知症ケアの基礎」(法定研修)

- ・飯塚哲男講師、多目的室、31名
- ・認知症の人へのケアで大切なことは、認知症の人はできない人ではなくできる人として関わること、たとえ認知症になっても、その人らしく生きることができるという思いと接遇についてわかりやすく説明していただきました。

〈受講後のレポートより〉

- ・やさしい表情と声で、目標を同じにする、うなずきながらゆっくり話すなど、安心する接遇をひとつでも増やせば、落ち着いてくれるかなと思いました。明日からの接遇に役立てます。

*7月19日(金)「いまさらですが・・・NPO 法人って何？」

- ・岡田実・杉本昭夫講師、多目的室、31名
- ・特定非営利活動促進法とは、認定NPO法人とは、生き生きネットワークの設立理念、NPOらしさとは何なのか等、みんなで一緒に考えました。

〈受講後のレポートより〉

- ・NPOの略は、Not-Profit Organizationとは知っていましたが、その続きが・・・But, for mission Organizationであることで理解した気がします。
- ・困っているSOSに、職員同士知恵を出し合い駆けつけてくれる。そんな積み重ねから人と人とのつながりと仲間が広がってきたんだなと思いました。お互い補い合って、いきいきと日々支援に向き合いたいと思います。

*9月20日(金)「Enjoy life 人との繋がりを大切に 介護長として駆け抜けた20年」

- ・山田英和講師、多目的室、37名
- ・温かい心の福祉を実践している白扇閣、人を思いやる介護事例をVTR等で分かりやすく発表していただきました。山田英和さんの白扇閣Love・福祉介護職への熱い想いを体験的にお話しいただきました。

〈受講後のレポートより〉

- ・山田講師のリーダーシップ・率先して取り組む姿勢・寛容な心など、見習いたいことが多くあり、勇気をいただいた気がします。
- ・行動力・バイタリティがありながらも、気遣い・配慮、言葉のチョイスなど日常的に考えておられるからこそその自然な体現講義、感服いたしました。刺激を活動に活かします。

*10月11日(金)「コミュニケーションスキルとしての手話講座」

- ・谷脇葉子講師、多目的室、33名
- ・言葉を使わずに情報や感情を伝えるノンバーバル（非言語）コミュニケーション。演習を通じてコミュニケーションスキルを実践的に学びました。

〈受講後のレポートより〉

福祉介護職は対人援助です。コミュニケーションも、非言語の部分（表情やあいづちなど相手の出している気持ち）を見逃さないこと、自分自身も相手に「聞いてもらえている」と感じ、安心して相談してもらえることを大切に、相手の気持ちを本当に理解できるような支援を目指していきたいと思います。

*11月22日(金)「相談事例に学ぶ仕事との向き合い方」

- ・小出宗昭講師、多目的室、32名
- ・中小企業支援の第一人者として全国での相談支援から、感銘を受けた方々の仕事への向き合い方の事例について共通点を解説していただきました。

〈受講後のレポートより〉

- ・病気を乗り越えながら、信念をもって人に影響を与え続けてこられた小出さん。お話しに触れる、モチベーションが触発されます。
- ・生き生きの活動に誇りを持って心に置いて、自分ができることの可能性を開いていきたいと思いました。

*12月13日(金)「災害時と福祉～共に支え合う為の準備と対応」 (法定研修)

- ・松山文紀講師、多目的室、34名
- ・共に支え合い命を守る基本視点、災害時の福祉職の心がまえと大切にしたいことなど、防災対策の具体的行動に役立つお話をいただきました。

〈受講後のレポートより〉

- ・ハザードマップの見方を分かりやすく、誰でも具体的な行動を起こせるレベルまで話を掘り下げてくださり感謝しています。課題を一つ一つ明確にし、改善策を考え具体的にアクションを起こせるよう取り組みを続けていきたいと思えます。

***1月17日(金)「カスタマーハラスメントとメンタルヘルス」 (法定研修)**

- ・飯塚哲男講師、多目的室、35名
- ・たとえお相手が利用者さんであっても、度を越した行為にどう対応するか、基本手順ガイドラインについて説明していただきました。

〈受講後のレポートより〉

- ・ハラスメント問題は、職員個人に留まらず組織全体で取り組むべき課題であると実感しました。具体的事例から、初期対応の重要性や適切な対応策を統一し、共有することの大切さを理解しました。
- ・この研修をきっかけに、双方が認め合いカバーし合えるような一体感のある強いチームにしていけるよう努力します。

***2月14日(金)「ファシリテーション実践講座～働き甲斐のある職場をみんなで創ろう」**

- ・小野寺郷子講師、多目的室、36名
- ・ファシリテーションによって、参加者個々の考えや感情・背景等を引き出しながら、全体として相互理解を深め合意形成に有効な基本スキルについて、ワークショップ形式で楽しく学びました。

〈受講後のレポートより〉

- ・ワークショップでは、同じチームの方が出す意見が、自分では思いつかない意見を出してくれて感動しました。良い時間でした。
- ・「人は自分の視点が有り盲点がある」「色んな考えや価値観を取り入れると視点が変わってくる」を意識して、ミーティング等に臨んでいきたいと思えます。

***3月14日(金)「感染症及び食中毒予防とまん延防止」 (法定研修)**

- ・杉浦操さん、多目的室、38名
- ・感染症・食中毒予防の習慣づけに共通する大切なことについて事例を交えながら分かり易く解説いただきました。

〈受講後のレポートより〉

- ・感染症や食中毒の予防には標準予防策が欠かせないと改めて痛感しました。中でも手指衛生は最も基本的な対策であり、また、個人防護具の正しい使用や環境消毒・換気の確保を継続することで、あらゆる感染症のまん延を防げると思えます。感染予防策は日々意識して地道に実践し習慣化することが鍵だと感じました。



いきいき研修会のように

②いきいき介護職員初任者研修(介護職員初任者研修)

福祉分野の担い手発掘、人材育成・能力向上支援施策として、介護職員初任者研修を2回(初任者研修通算4回目)開講しました。事前自宅学習を経て通学学習(16日間)を熱心に取り組み、無事、全員が修了試験に合格しました。

- ・令和6年第1回: 通学学習5月14日～7月9日(水曜・土曜)、受講生は6名で、活き活きネットワークに関係する方々からのご紹介です。講師は12名でスタッフ11名が務めました。テキストに添いながらも、自身の思いや気持ちを織り込み伝えてくれました。受講生からは「分かるまで丁寧に教えてください感謝です」、「介護の3原則のケアを自分なりに見つけたいです」といった声が寄せられました。
- ・令和6年度第2回: 通学学習を1月14日～3月8日(火曜・土曜)、受講生は5名、高校生、デイサービス・グループホーム(富士市)に勤めながら、仕事・学校と両立しながら修了できるようサポートしました。コロナ・インフルエンザ・家族介護等による欠席への補講(9日)対応に努めました。



令和6年第1回介護職員初任者研修(5/14～7/9)



令和6年度第2回介護職員初任者研修(1/14～3/8)

③ 資格取得・外部研修の支援

職員が介護等の実践的な知識と技術を習得し、現場の実務に活かすことができるよう団体として支援を行っています。職員の希望により、資格取得支援、外部研修参加の奨励・支援をしました。

＜資格取得者＞

令和6年度資格取得は1名でした。同行援護従業者養成研修一般課程(1名)

これにより、介護福祉資格の保持者は以下の通りとなりました。

介護職員初任者研修76名、介護福祉士24名、保育士19名、実務者研修5名、

幼稚園教諭7名、ケアマネジャー3名、社会福祉士2名 他

＜外部の関連機関等が開催する研修会・催事等に参加＞

地域のNPO・福祉関連団体、行政機関等が開催する研修会に参加しました。福祉NPOを取り巻く環境変化に対応していくことができるよう参加を推し進めています。

静岡市医療的ケア児支援協議会

自宅でずっとミーティング(ケアマネ)

静岡県訪問看護ステーション協議会通常総会・研修会

重症心身障害児全国ネットワーク中部ブロック会議

重心デイサービスネットワーク全国大会

福祉有償運送特定事業安全管理者講習

重層的支援体制整備事業シンポジウム

医師会と訪問看護STとの意見交換会

せいしんビジネスクラス新春講演会

安東地区自治会連合会安東夏祭り参加出店

その他

訪問看護ステーション葵区Bチームミーティング

主任介護支援専門員研修

福祉の仕事就職相談会

中央子育て支援ブロック会議

総合支援法報酬改定説明会

せいしんビジネスクラブ経営研究会

ボランティア協会理事会

あおぞら診療所医ケアカフェ

安全運転管理者講習

静岡信用金庫総代会

④外部の委員会等への参加、講師派遣

NPO・福祉関連団体等が主催する協議会・連絡会のメンバー会員として参画し、各分野の関連機関の方々等との情報交換、意見交換に参画しています。リモート参加の委員会も増え、業務の合間での参加もし易くなっています。

また、安東地区の関連機関の行う交流催事に積極的に参加しました。

＜外部委員会、協議会メンバー＞

SSC(ShizuokaSDGs Community)情報交換会
静岡市障害者自立支援協議会こども部会
静岡市障害者協会会員
静岡市番町市民活動センター入居団体審査会
静岡信用金庫総代会
しずおか男女共同参画推進(専門部会)
静岡県立大学講師
児童発達支援連絡協議会
主任ケアマネ連絡会
静岡市葵区共同募金運営委員会
地域ケア会議

安東地区福祉推進協議会
静岡市社会福祉協議会評議員会
静岡県訪問看護ステーション協議会
静岡県肢体不自由児協会理事(理事)
(学法)国際ことば学院(監事)
(特非)静岡県ボランティア協会理事会(理事)
静岡市医療的ケア児等支援協議会
静岡県男女共同参画推進会議全体会
安東地区自治会連合会
葵区駿河区放課後等デイサービス連絡協議会
その他

⑤ボランティア体験・実習生受け入れ対応

NPO・関連機関と連携して、実習生・ボランティア体験等の受け入れを行いました。現地オリエンテーションを行い、施設見学をしたうえで有益なものとなるよう受け入れの対応をしました。みなさん目標をもって積極的なふれあい活動をしていました。

8月のコロナ第11波の影響でお盆過ぎからの受け入れは縮小となり、令和6年度のボランティア体験・実習生受け入れは17名となりました。

常葉大学保育実習生3名、静岡県ボランティア協会サマーショートボランティア12名、静岡市社会福祉協議会葵区地域福祉推進センター2名。



実習生・サマーショートボランティア体験受け入れの様子

3. 理事会・総会、安全衛生委員会等

① 総会・理事会

総会は、議決権を持つ正会員（理事、評議員等）により、定款に定められる事項の議決を行っています。通常総会は事業報告及び活動決算報告案（毎年6月）、予算総会は、事業計画及び活動予算・補正予算案等（毎年3月）の議案について審議しました。理事会は、理事及び評議員等により毎月定例開催しました。

令和6年9月より、木曜日夜の理事会を「いきいき懇談会」として、テーマを設けて理事・評議員の皆様にも参加いただき、スタッフと話し合ってくださいとなりました。

- ・奇数月は、理事会として報告事項・審議事項について審議（基本第3土曜10時～）
- 偶数月は、いきいき懇談会として開催しました（9月～、第3木曜18時30分～）。
- ・令和6年度は、理事会8回、いきいき懇談会3回、総会を2回開催しました。

4月25日（木）中止（コロナ感染症等の影響）

5月25日（土）理事会（多目的室 10:00～12:00 26名）

- 報告事項 ・部門別活動状況報告（4/1～5/24）
- 協議事項（1）いきいき研修会のありよう。

（2）交流・親睦行事について他

いきいき研修会について、研修テーマ・研修講師・法的研修内容・スケジュール等について検討しました。

6月15日（土）理事会・通常総会（多目的室 10:00～12:00 36名・書面評決 15名）

- 理事会にて、通常総会にかける議案について報告し承認されました。その後、同一議案について通常理事・担当より説明し、質疑応答の後、議長が議場に諮り承認されました。

- ・第1号議案 「令和5年度事業報告案」承認
- ・第2号議案 「令和5年度決算報告案（監査報告）」承認

7月25日（木）理事会（多目的室 10:00～12:00 15名）

- 報告事項 ・部門別活動報告（5/25～7/24）
- 協議事項（1）人材確保策について。

（2）介護福祉士実務者研修実施申請検討。

（3）木曜夜の理事会について。

奇数月木曜夜の理事会は「いきいき研修会」として、テーマを設けて、正会員（理事、評議員）にも参加いただき、スタッフと大いに語り合ってくださいものに変更する。偶数月土曜朝の理事会は定款の規定に基づき、これまで通り実施、9月（9/26）は第1回いきいき懇談会として行うこととなりました。

8月24日（土）理事会（多目的室 10:00～12:00 30名）

- 報告事項 ・部門別活動状況報告（7/25～8/23）
- 協議事項（1）新副代表理事選任案（理事互選）

（2）理事懇談会のありよう

（3）南海トラフ地震臨時情報への備え

8/8 南海トラフ地震臨時情報発令し、備蓄品補充、喜楽庭塀改修見積もりソーラー蓄電池購入等、災害対策について検討しました。

9月26日(木) 第1回いきいき懇談会(喜楽庭 18:30~20:00 24名)

○本日のテーマ (1) 職員防災アンケート検討

(2) 喜楽庭の災害への備えと、その後の方向性

南海トラフ地震臨時情報発令を受けて、職場での災害リスクについて率直な意見を集めたところ、各部門が抱えている課題や不安に同傾向がみられました。

10月26日(土) 理事会(多目的室 10:00~12:00 23名)

○報告事項 ・部門別活動状況報告(8/26~10/25)

○協議事項 (1) 災害への備えについて (職員防災アンケート対応の検討)

・喜楽庭の災害への備えと課題

・災害時の情報共有方法

・一次滞在避難生活への備え(2号館)

アンケート結果から不安の大きい喜楽庭の備え、通信連絡手段確保について改善する事になりました(壁面ブロック改修、スロープ、チャットワーク等)

11月28日(木) 第2回いきいき懇談会(喜楽庭 18:30~20:00 22名)

○本日のテーマ (1) みんなの居場所&子ども食堂「もぐもぐキッチン」についてコロナからお弁当販売で5年経過し、みんなの居場所&子ども食堂の目的・形態のありようについて意見交換しました。3月よりイートイン再開となりました。

12月21日(土) 理事会(多目的室 10:00~11:30 30名)

○報告事項 ・部門別活動状況報告(10/26~12/20)

○協議事項(1)クラウドファンディング実施について

くすくす2号館は、災害時の避難施設として重症児童の命を守る「太陽光蓄電池」の設置について検討しました。この施設が医療的ケア児の命を守る防災拠点となることを目指して、クラウドファンディングに挑戦することとなりました。理事会終了後、外部の理事・評議員さん19名と懇談会を行いました。

令和7年1月30日(木) 第3回いきいき懇談会(喜楽庭 18:30~20:00 17名)

○本日のテーマ・クラウドファンディング実施について

くすくす2号館に太陽光発電電池を設置、利用者さんや職員の安全を守る施設として、幅広く共感・支援を募るクラウドファンディング挑戦について説明しました。公開2/25~4/25、目標金額250万円、くすくす2号館隣の太陽光蓄電池設置。Webインターネット等で公開することで、より多くの方々に生き生きネットワークの活動を知っていただくきっかけとしてチャレンジを進めることになりました。

2月22日(土) 理事会(多目的室 10:00~12:00 26名)

○報告事項 ・部門別活動状況報告(12/21~2/21)

○協議事項 (1) クラウドファンディング公開について

・2/25~4/25、目標250万円

医療的ケアが必要な方達が通う施設を災害に強い安心できる場所に。

3月29日(土) 理事会・予算総会(多目的室 10:00~12:00 26名)

○理事会にて予算総会に懸ける議案について報告し、議決ごとに代表理事・担当理事等から説明し質疑応答の後、議長が議場に諮り承認されました。

その後、同一議案について予算総会に提出し決議されました。

・第1号議案「令和7年度事業計画案」承認

・第2号議案「令和6年度補正予算案」承認

・第3号議案「令和7年度当初予算案」承認



6/15 理事会・通常総会



9/26 いきいき懇談会



10/26 理事会



12/21 理事会・懇親会



3/29 総会

② 安全衛生委員会

安全衛生委員会は、労働安全衛生法に基づき職員の安全と健康の課題や要因等について情報を共有し、快適で安全な職場環境に改善を進める委員会です。

*委員は産業医、衛生管理者を中心に、毎月案件に応じて随時対象者を招集し令和6年度は12回開催しました。職員の健康状況については、産業医の職場巡視により体調不良の職員の個別相談・指導の対応を行いました。職員の健康状況(職場巡回、健康チェック等)、ヒヤリハット報告と再発予防、職場環境、建物施設補修、健康診断結果等の案件を持ち寄り開催しました。また、事故・ヒヤリハット、感染症陽性者発生の情報を得たら、委員・産業医、担当部門等と情報を共有し対応策を検討しました。

*4月22日(月)

職員の健康状況は、休職中職員の治療経過について、回復状況と主治医の診断から診て、職場復帰ステップの支援に向けた意見交換を行いました。

施設経年劣化、安全安心の要望について検討し、順次営繕・修理工事を始めました(喜楽庭の裏門扉、トイレ天井、雨漏り補修、成人部居間床修繕等)

*5月13日(月)

コロナ禍以降の離職者によって、欠員職種の補充確保の取り組みについて確認しました。ハローワーク・ナースセンター等の紹介対応について説明がありました。新規採用された方も出てきて、試用期間の状況について意見交換しました。ケアマネ・訪問看護部門の事務所を移転しました。

*6月10日(月)

欠員職種の補充確保への取り組み、見学面接者の状況について検討しました。

職業専門職募集、ナースセンター、大学募集採用登録等の取り組み状況と対応について検討を進めました。

*7月10日(月)

新型コロナウイルス感染症(11波)から影響を受け、利用者、職員7名が陽性となりました。利用児の感染(濃厚接触)の利用自粛の協力、個別受入れ措置対応について確かめました。熱中症警戒アラートも発信時の方策について話し合いました。

***8月26日(月)**

新規に入職し活躍されている7名の職員の勤務状況について情報交換しました。試用期間の様子を見守りを進めていきました。夏休み繁忙期の中、熱中症アラート発令もあり、コロナ感染症11波の影響が続きました。5類分類移行後、感染対策は個人の選択となり、個別の状況について情報交換しました。

***9月30日(月)**

防災への備えとして補修工事について説明しました。喜楽庭フェンス工事、防災倉庫設置、備蓄品メンテについて行うこととなりました。職員の健康状況では、試用期間中の欠勤しがちな職員の対応についての検討、試用期間中の職員の夏休み繁忙期の適応状況等について検討しました。

***10月28日(月)**

継続案件として、防災対策について検討、災害時の避難拠点としてくすくす2号館の蓄電池設置の方法について話し合いました。11月8日に法人全体での総合防災訓練を実施することになり、大地震発生時の初動訓練(避難・安否確認・連絡等)方法の相談をしました。

***11月18日(月)**

情報共有・業務連携のためのツール「チャットワーク」の導入について協議しました。各部門・現場間の連絡がスムーズに見える化され、情報連携に有効として具体的運用方法について検討しました。また、くすくす2号館の蓄電池設置クラウドファンディング公開の準備状況の説明があり手順の検証をしました。

***12月16日(月)**

職員の健康状況では、産業医に職場巡視をしていただき、体調不良職員について個別相談指導について共有しました。出欠勤が不安定な職員等の対応について意見交換しました。

***1月27日(月)**

くすくす2号館駐車場への駐車による隣地ブロック破損事故の報告がありました。ブロック修理、再発防止に向け検討しました。

***2月17日(月)**

- ・防災上の危険箇所及び駐車場入出庫時の事故防止策として、喜楽庭壁補修工事、2号館駐車場看板設置等について検討しました。
- ・クラウドファンディング公開を控え(2/25)、準備状況について検証しました。公開ページ内容のチェック、理事・会員さん・支援者等への先行案内拡散方法、SNS等の事前投稿の拡散、地域メディア等への事前告知、応援メッセージ依頼等の状況について説明がありました。目標達成の為に公開日からのスタートダッシュへのお声掛けについて意見交換しました。

***3月10日(月)**

職員の健康状況では、転倒骨折後仕事復帰しているヘルパーさんについて、無理のない仕事を確かめながら意見交換しました。昨年夏場に入職した7名の試用期間が明け本採用に向けて意見交換しました。コロナ感染症とインフルエンザ感染が引き続き発生しています。引き続き緊張感をもって基本感染対策の徹底を進めていくことを確認しました。

③連絡調整会議

*連絡調整会議は、各部門(18部門)の連絡報告、相談事項を持ち寄り、情報交換・意見交換により、部門間の連携・協力がスムーズに行えるように進めています。月1回年12回開催しました。

*事務局会議を随時開催、全員で業務運営対策・イベント等の情報共有を図りました。

4. 地域との連携・各種催事の実施・情報発信活動

①交流行事の協催・参加

*令和6年度は、地域の方や企業・団体と協働してレクリエーションやワークショップ等イベントを開催しました。地域との繋がりを広げ、皆さんに喜んでいただけるよう運営しました。交流運動会(第21回)はお昼までのミニプログラムで約100名の笑顔が溢れる運動会となりました。

・くすくす2号館を活用した集会・催事の共催「認定NPO法人ALD未来を考える会」、外部関連機関に多目的室ご活用いただきました。

・フリーマーケットに近隣の方々・NPO等の出店が広がりました。

・恒例イベントは、順次、要望の多かった交流催事を開催しました。

- ・ 4月20日 フリーマーケット(駐車場)
- ・ 8月17日 安東夏まつり出店(安東中グラウンド)
- ・ 9月22日 ワーカー親睦日帰りバス旅行(小淵沢、29名)
- ・ 10月20日 第21回交流運動会(シズウェル体育館、95名)
- ・ 11月6日 秋の福祉コンサート招待参加(生活介護・わくわく等)
- ・ 11月16日 フリーマーケット(駐車場)
- ・ 12月15日 クリスマス会(Temboo、95名)
- ・ 12月25日 英和女学院音楽部 Xmas 讃美歌(喜楽庭)
- ・ 3月30日 認定NPO法人ALD未来を考える会セミナー共催



4/20・11/16フリーマーケット
キャンバスコーヒーさん



角屋老舗さん



ベーカリー風さん



マガサくい渡辺さん



ポップコーンプレゼント
(ユースター静岡さん)



8/17 安東夏まつり出店



9/22 ワーカー親睦バス旅行



10/20 第21回交流運動会



11/6 秋の福祉コンサート
招待参加(AOI)



12/15 クリスマス会(Temboo)



12/25 英和女学院 Xmas 讃美歌(喜楽庭)



3/30 認定NPO法人ALD未来を考える会協催

②自衛消防活動

甲種防火管理者 8 名による施設ごとの自衛消防隊が編成され、各施設の避難訓練・安全確保等の訓練を所轄消防署に届け出し実施しました。

自衛消防避難訓練を施設ごとに 2 回(毎月実施部門もあり)実施しました。災害発生時に避難する際、安全確保・感染防止を考慮した訓練を行いました。4 月は、ケア支援中に地震が発生した想定での安全確保する訓練、11 月は、施設・避難所での一時滞在避難を想定した訓練(備蓄品・発電機・防災テント設営)でした。

また、停電・断水時の必要な備蓄品の補充をしました(ソーラー発電機、簡易テント、水・食料・毛布等)。いつ起こるか分からない自然災害(地震・台風・豪雨等)を災害 BCP と関連づけて、課題解決を想定した訓練と対応を続けていきます。



4/23 合同避難訓練



11/11 合同避難訓練



③ 情報発信・広報活動

会員の皆様・ご支援いただいているお仲間等に活動の様子や予定等をお伝えし、活き生きネットワークの活動をより身近に感じていただくよう、定期的に発信しています。

時代に合わせた SNS (Instagram) の情報公開活動に取り組みも始めました。

* 職員間の情報共有・業務連携ツールとして、ビジネスチャットワークを導入しました。職員・部門間で簡潔に迅速に伝え合い、全体の状況を理解し易くなりました。

* ほっと通信 No130~134 を発行しました。

* SDGs 宣言事業所活動

国連が提唱する「SDGs のゴール(だれ一人取り残さない)」の理念は、活き生きネットワークの「お一人おひとりがその方らしく活き活きと生きるためのお手伝い」と目指す方向が一致するという事で、令和 2 年度に静岡市 SDGs 宣言に参加しました。SDGs5 分野の開発目標については、令和 6 年度事業計画と関連付けて活動目標を設定しました。年度計画達成により、持続可能な地域社会の実現への取り組みとして活動を進めました。



5. クラウドファンディングへの挑戦

令和6年度、「くすくす2号館に太陽光蓄電池を設置し、医療的ケアが必要な方々が災害時にも安心して過ごせる場所を整えたい」という思いから、初めてクラウドファンディングに挑戦しました。

昨年8月、南海トラフ巨大地震に関する注意情報が発令されたことをきっかけに、拠点の防災体制を見直す必要性を強く感じました。話し合いを重ねた結果、READYFORの伴走支援型プランを活用し、プロジェクトを立ち上げることを決定しました。

クラウドファンディングは、令和7年2月25日から4月25日までの59日間にわたって実施され、目標金額250万円に対し、わずか1カ月で達成することができました。その後もネクストゴールを掲げ、多くのご支援をいただき、最終的には336万2千円(達成率134%)という大きな成果を収めることができました。

広報活動においては、理事・評議員・職員・会員の皆さまを中心に、チラシ配布や個別のご案内などを通じて積極的に発信にご協力くださいました。また、SNS(Instagram・Facebook)での拡散や、新聞・ラジオなどのメディアでも取り上げていただき、地域内外の多くの皆さまにプロジェクトの趣旨や思いをお届けすることができました。

さらに、地元出身の作家・岡田真理さんやシンガーソングライターの森圭一郎さんをはじめ、たくさんの方々から温かい応援メッセージをお寄せいただき、プロジェクトの意義が広がり、共感の輪が広がっていくのを実感しました。

今回のクラウドファンディングは、資金を集めるという目的にとどまらず、私たちの活動や大切にしている思い、防災に対する取り組みを、より多くの方々を知っていただける大きなきっかけとなりました。また、プロジェクトを通じて、地域の皆さまが私たちの活動に関心を寄せてくださっていることを改めて感じることができ、大きな励みとなりました。

この経験を糧に、非常時にも安心して過ごせるような体制づくりを、さらに進めてまいります。今後ともご支援くださった皆さまとのご縁を大切にしながら、感謝の気持ちを込めて、報告や交流を重ねていきたいと思っております。

※なお、令和7年5月には太陽光蓄電池を設置し、6月にはプロパンガス発電機とポータブル蓄電池の整備が無事完了いたしました。ありがとうございました。



クラウドファンディング公開ちらし



4/25 公開最終日

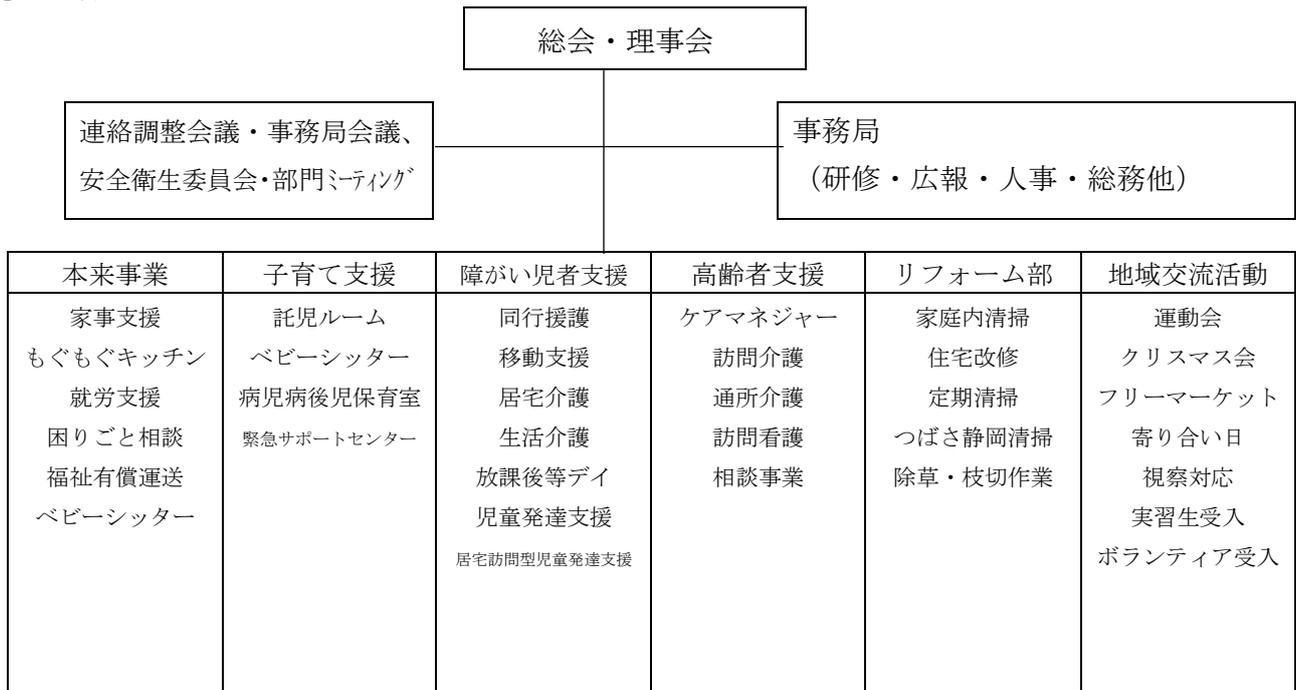


5/13 太陽光蓄電池設置



6 会員数・寄付者数

① 組織図



② 会員数・寄附者数

(人)		令和4年	令和5年	令和6年	
会員	正会員	52	51	53	
	賛助 会員	ドリーム会員	300	295	263
		ワーカー会員	123	125	117
		団体会員	2	2	2
計		477	473	435	
寄附者	(人)	255	218	258	

<記念撮影の記録>



10/20 第21回交流運動会集合(シズウェル体育館)



12/14 クリスマス会(Temboo)



1/4 新年初詣(浅間神社)



3/29 予算総会(多目的室)